

倫理と学会

調査理事 今井 秀樹



倫理というと、なんとなくいかめしく、身構えてしまうのですが、本来は人の生き方、身の処し方といった意味のようです。人の生き方は、時代と共に変わりますから、倫理も不変ではあり得ません。アリストテレスの倫理学が現代にそのまま適用できるはずはないのです。殊に、社会の大きな変革期には倫理も大きく変わります。

現代の社会に電子、情報、通信技術が大きな変革をもたらしていることは周知の事実です。人々の暮らしも、考え方もこれらの技術の影響を抜きにしては語れません。情報通信ネットワークの一層の発展に伴って、更にその変化は大きくなっていくでしょう。とすれば、倫理も変わっていかねばなりません。コンピュータ犯罪やカード犯罪、コンピュータウイルスの増加は、人々の倫理観が時代の変遷に追いついていない結果とみることもできます。今後も、情報通信による効率性・利便性・快適さの追求の裏側で更に多くの問題が生まれてくることは容易に想像できます。

社会の高度情報化を健全に進展させていくためには、新たな倫理の確立が必要なのです。もちろん、これは電子、情報、通信技術の専門家だけでできるものではありません。倫理は社会全体が作り出していくものです。しかし、技術が社会に与える影響を洞察し、倫理上どのような問題が生じ得るかを指摘するには、専門家の力が必要です。但し、何が倫理上の問題であるかの判断は専門家だけでは難しく、倫理学、法学、経済学などの分野の人も交えて議論する必要があります。

また、このような問題についての社会の認識を深め、コンセンサスを形成していくには、一般の人々に技術を理解してもらう必要があります。技術をわかりやすく解説し、だれにでも親しみやすいものにするのも、専門家の重要な役割です。

更に、医師や弁護士に厳しい倫理が要求されるように、社会に大きな影響を与える技術の専門家にも、一般とは異なる倫理基準が要求されるのは当然です。このような技術者倫理についても、専門家だけで議論できるわけではありませんが、専門家が主体的に考えていく必要があります。

以上のような倫理の問題は、個々の専門家が対処できるものではありません。学会が中心的役割を果たす必要があります。昨年、本学会に情報通信倫理研究会が発足したことは時宜を得たことといえましょう。電子、情報、通信技術が今後の社会の基盤となる以上、これらの技術にかかわる倫理は将来の社会のあり方そのものを規定するものといってもよく、それだけにこの問題に関する本学会の責務は重いといわねばなりません。